

年 度	番 号	部 門
19		木材利用

# “ 福井の森の研究から ”



福井県総合グリーンセンター  
林 業 試 験 部  
0776-67-0002

## 葉枯らし乾燥について (2)

県では、平成5年に「葉枯らし材生産の手引」を作成して普及に努めてきた。当「福井の森の研究から」でも1997年編で紹介している。

葉枯らし乾燥については、その効果が認識されて素材生産業者等が実施しているが、木材市場に出材された丸太の中に虫害を受けたものが混入していたり、当所でめり込み試験用材として購入した材の中に「ふけ」の入ったものがあり、強度が低下した例も見られた。

「手引」では、長期に放置した場合の含水率変化、虫害発生や打切り時期の指針が明確でないことから、これらを明らかにし、改訂版を作成することによって、健全な葉枯らし材生産と福井材の強度信頼性を高めることを目的に、試験を実施した。

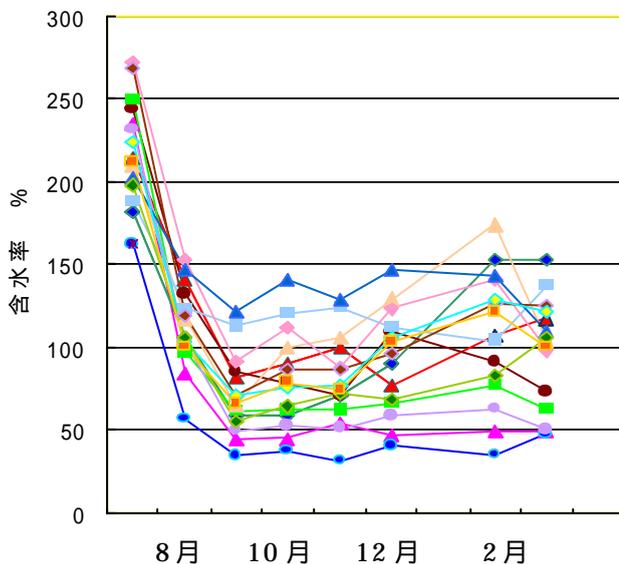
### 試験方法および概要

#### (1) 含水率減少経過

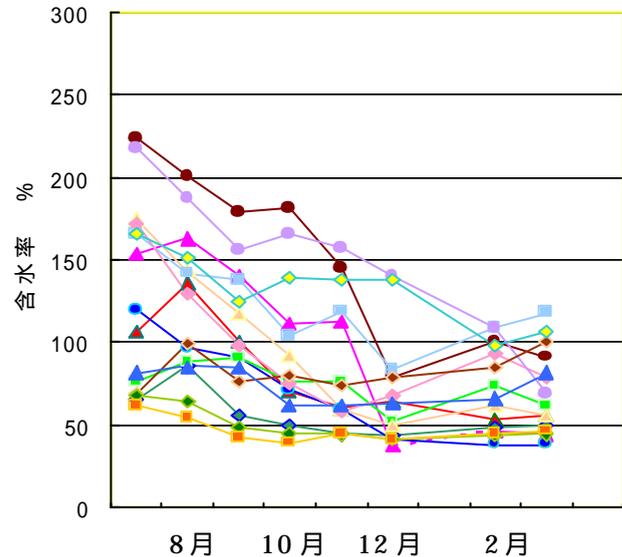
木材中の含水率変化と材質劣化の調査を目的に、長期にわたる追跡調査を行った。

伐採時から1ヶ月毎に木口から0.5～0.6mの個所で含水率測定用円盤および材色測定用円盤を採取して測定した。

含水率減少経過の例 (間伐・伐採時期 / 7月初旬)



辺材部の含水率経過



心材部の含水率経過

夏季に伐採した試験材の辺材部含水率は、2ヶ月後に最低レベルに達した後、秋から冬季へと季節が変わり、温度が下がって天候不順な日々が続くようになると、一旦減少した含水率が徐々に増加し、長期に放置した調査木では、含水率が100%以上まで戻ったものもあった。

(乾量基準の含水率では、水分0%の時の木質の重さに対する測定時の木材に含まれる水の重さの比で表すため、含水率200%、300%という値になる)

## (2) スギ「黒心材」の「シブヌキ」効果

スギの心材部は、普通淡紅色をしており、含水率は70%~100%前後であるが、中に黒褐色を呈しているものがあり、「黒心材」と言われている。「黒心材」は、何らかの原因により立木時の含水率が高く、含水率は170%~200%以上に達する例もある。その程度は黒心成分の多少によって、黒さの程度や含水率に差がある。また、製材した後も含水率が下がらず、乾きにくい特徴を持っている。

含水率が低下しなければ、「シブヌキ」効果は得られないが、含水率が高く、乾きにくい「黒心材」の「シブ」が抜けるまでには相当の期間を要することになり、この間に辺材部の材質劣化を招く危険性があるため注意を要します。

### シブヌキ効果 伐倒時



### 5ヶ月後(12月)の辺材、心材色



## (3) 葉枯らし乾燥の期間

葉枯らし乾燥は、いろいろは条件に左右されるため、単純に何ヶ月で打切るといえるようなことは出来ないが、夏季皆伐林地や春では2ヶ月を目安に、旧盆過ぎに伐倒したものは積雪前に搬出。春季に伐採したものは、虫の穿孔被害がひどくならないよう梅雨入り前に搬出する必要があります。

### 6月伐採・4ヶ月後(10月)の 辺材の変色



### 購入した板の辺材部分にみられた変色。



## (4) その他留意点

葉枯らしは、間伐か皆伐か、伐倒木の梢端が山側か谷側か、枝葉の重なり具合、日あたりの程度、風通しの良し悪し、地形、標高、天候等が総合して影響します。

伐倒木の木口を切り株の上に乗せておくと葉枯らし効果が大きいといわれています。

葉の枯れ具合だけを目安にしていると、間伐林地で日射のよくない場合は、半年を過ぎても青い葉が残っていることもあり、注意する必要があります。

「ふけ」 木材腐朽菌が侵入した初期の段階で見られる木材の変色現象

### 参考文献

1) 梶田 熙 他 木材・木質材料用語集 東洋書店

<文責 土田 博 澄>